

第3章 安曇野市がめざす環境のすがた

1. 基本理念(安曇野市環境宣言)

私たちが住んでいるこの美しい地球に、そしてこの安曇野にも危機が訪れています。これまでの無秩序な開発や社会経済活動、過剰なまでの消費生活などにより、公害や地球温暖化などの現象をもたらし、自然環境や生活環境をおびやかしています。

古代以来、人の生活とともに築かれてきたこの安曇野の環境を未来へ引き継いでいくには、今までの私たちの暮らしを見直し、そして社会のあり方を考えていかなければなりません。それは、経済効率優先の社会から、多少の不便さも良しとする社会への価値観の転換を意味しています。

私たちは、「地域」、「世代間」、「市民・事業者・行政」が連携することによって、より良い安曇野の環境をつくっていきます。

人と自然が調和した生活環境をつくり、将来を担う子どもたちに引き継いでいくために、以下の行動を実践することをここに宣言します。

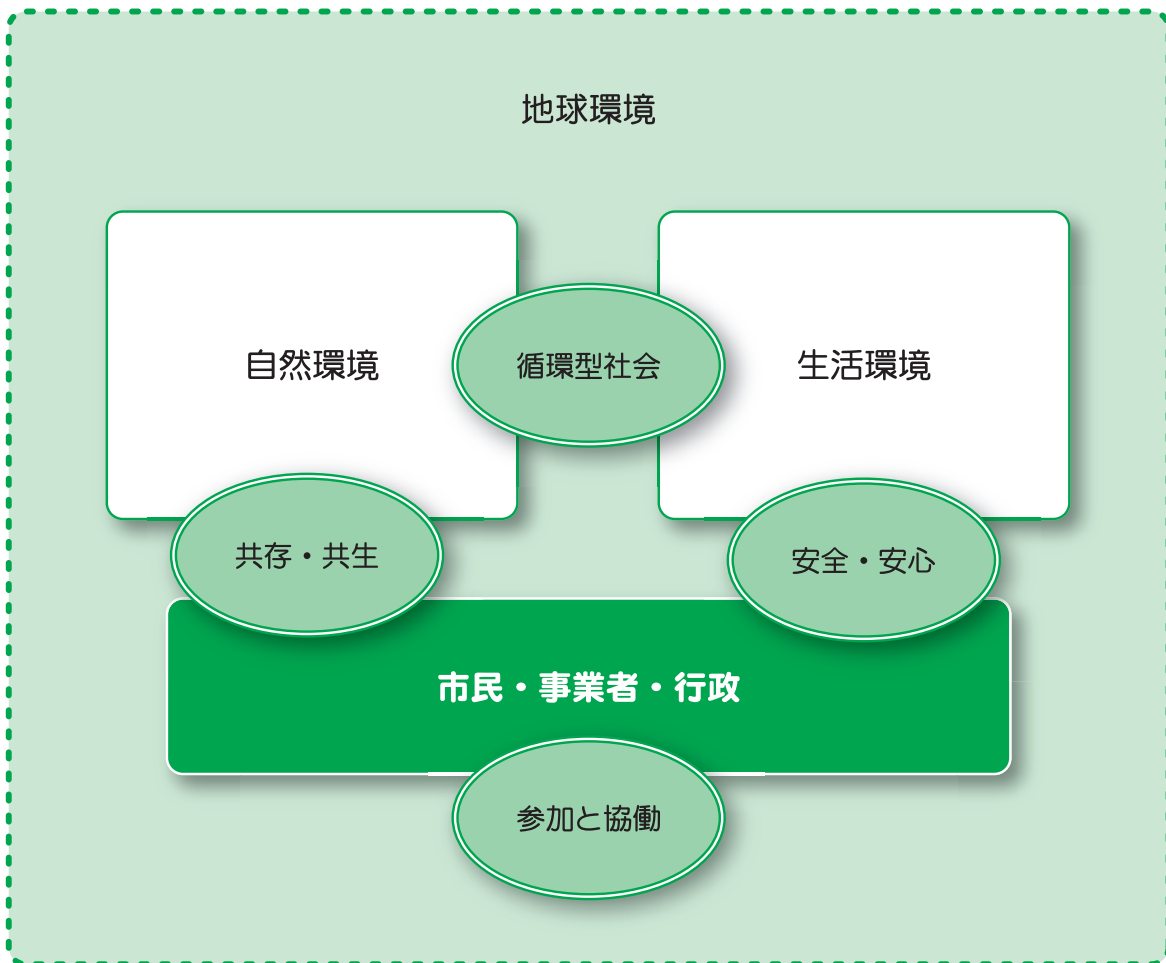
- 豊かな自然と農業を育み、人と自然が共存・共生する社会を目指します。
- 水と空気を守り、快適で安全・安心な暮らしを目指します。
- 身近な暮らしと社会を見つめ直し、資源やエネルギーを大切にした循環型社会を築きます。
- 環境学習や環境保全のための地域活動を実践し、豊かな地域環境を次世代に引き継ぎます。

2. 望ましい環境像

本計画では、目指すべき将来の環境像として、次の4つが実現された「まち」をイメージしました。

- 🍃 豊かな自然と快適な生活空間
- 🍃 きれいな水と空気、安全な生活環境
- 🍃 循環型の社会（ごみ減量、省・新エネルギー）
- 🍃 自ら学び 考え 行動する市民

この環境像のイメージを下の図に示します。



環境基本計画は、将来の安曇野市に上記の環境像を実現していくため、大きな4つの柱から組み立てられています。その大きな柱とは、「共存・共生」「安全・安心」「循環型社会」「参加と協働」の4つです。4つの柱で実現したいことを以下に説明します。

共存・共生をはかるべきもの [豊かな自然と快適な生活空間]

安曇野市の特徴のひとつに「豊かな自然」があります。私たちはこの豊かな自然からのさまざまな恵みを受けて生活していますが、この自然が地球温暖化や人々の生活スタイルの変化によって、急激に変化しつつあります。一方で、暮らしと密着した環境（生活・住空間・景観）も人口の増加や社会資本整備の進展により、景観が悪化したり人の暮らしにくい空間が見受けられるようになりました。

「豊かな自然」を維持・創出していくには、まずは自然の仕組みの微妙なバランスや自然に対して起きていることを知り、人との共存・共生を図っていくことが必要です。また「快適な生活空間」確保の観点からは、さまざまな人々が共に生活できる空間づくりや、山や水辺といった安曇野らしい自然を、景観やその一部として生活空間に取り入れていくことを検討していきます。

安全・安心な暮らしを支えるもの [きれいな水と空気、安全な生活環境]

人々の生活を支えるものとして、水と空気は重要です。開発の進展や人口増加の中で、市民の水瓶となっている地下水や清冽な川の流れを守っていくことが課題となっています。また「空気のおいしい」ことも安曇野市の「良さ」のひとつであり、これも守っていく必要があります。また工場や自動車の増加による「公害」の発生も懸念されています。

水と空気を守るために、まずはしっかりと現状を把握することが必要です。公害については、同様に現状を把握し、情報収集を進め、快適で安全・安心な暮らしを目指します。

循環型社会をつくるもの [ごみ減量、省エネルギー・新エネルギー]

環境的な課題として大きいものに、ごみとエネルギー問題があります。市内から排出・処分されるごみの量は膨大であり、燃焼時の地球環境への負荷や残った^{ざんざん}残渣の処分などが懸念されます。エネルギーでは、地球温暖化に関係の深いCO₂排出量削減やエネルギー運搬・移動にもなう環境負荷の低減が課題となっています。

地球環境への負荷を減らすには、循環型社会を地域として目指すこと、実現することが重要です。この循環型社会を実現するため、ごみをなるべく減らし再び利用すること、省エネルギーを実践すること、地元でのエネルギー生産の可能性を探ることなどについて述べていきます。

参加と協働 [自ら学び 考え 行動する市民]

私たちの安曇野市を未来へより良いかたちで引き継いでいくためには、市民一人ひとりが環境に対する課題を知り、良いことは続け、悪いものがあれば直していく活動の実践が必要です。また環境問題も多様化・広域化しており、個人そして事業者や行政など、ある特定の主体だけでは解決できない問題も多くなっています。

安曇野市の環境をより良い方向へ導くため、未来を担う子どもたちの環境学習への参加はもちろんですが、世代を越えて環境学習へ参加していくこと、そして地域内での連携や市民・事業者・行政の協働を図っていくことについて、ここでは述べていきます。

3. 望ましい環境像を実現するための取り組み体系

望ましい環境像を実現するために立てた4つの柱と、それぞれの柱の中に含まれる環境の項目を以下に示します。

次章では、この体系にしたがって具体的な取り組みの内容をみていきます。

